

くすり博物館だより

VOL. 62

2009年(平成21年)11月

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY



内藤記念くすり博物館
〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
Tel: (0586) 89-2101 Fax: (0586) 89-2197
<http://www.eisai.co.jp/museum/>

特集 図録の世界



内藤記念くすり博物館では、企画展の際に図録を刊行しています。図録は、展示のガイドブックとして欠かせないものですが、展示が終わってからもテーマを学ぶ読み物として、あるいは図版を楽しむものとして活用できます。

今回は、くすり博物館の図録の活用方法をご紹介します。当館だけでなく、県立や市立の図書館でも配架していただいているところがあります。また、購入も可能ですので、ぜひご活用ください。

病気とくすりについて

最近では新型インフルエンザが猛威をふるっていますが、江戸時代や明治時代にはどんな病気が流行したのでしょうか。

江戸時代に恐れられた病気は、**疱瘡**（天然痘）や**麻疹**（はしか）、**虎列刺**などの感染症でした。当時、疱瘡や麻疹には、一度かかると二度とからないということが経験的に知られていました。しかし、病原菌の存在についてはまだ知られておらず、病気の仕組みもわかっていませんでした。そのため、病気にかかった時には医師にかかって薬を飲むだけでなく、まじないに頼ったり、体によいといわれる特定の食べ物を食べて、病気を早く治そうとしました。

図録『はやり病の錦絵』は、**疱瘡絵**・**麻疹絵**・**虎列刺絵**と呼ばれた色刷りの版画を特集しています。これらは、きれいな絵やこっけいな絵を中心に、当時の予防方法やかかった時に症状が軽くて済む方法などを紹介しています。美人を描いた浮世絵とは一味違い、庶民の病気に関する考え方の一端を知ることができる絵ということがいえるでしょう。また、図録『病と祈りの歳時記』は、これらの錦絵にあわせて、無病息災や病気平癒を祈った絵馬や郷土玩具も多数紹介しています。

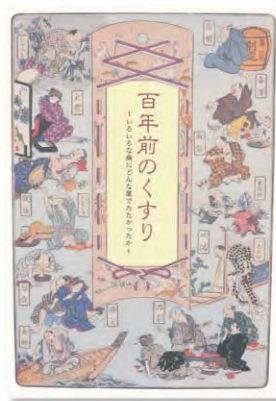
幕末～明治に用いられた薬を紹介しているのは、図録『百年前のくすり』です。また、婦人薬・小児薬などを紹介した『女・こども・男のくすり』なども、昔の薬を知る上で役に立つでしょう。



『はやり病の錦絵』



『病と祈りの歳時記』



『百年前のくすり』



『女・こども・男のくすり』

東洋医学を知る

日本の医学・薬学は、古来中国医学の影響を受けて発展しました。図録『薬の神様 神農さんの贈り物』は、中国の薬祖神・神農信仰と、本草学の書物を紹介したものです。本草学は今日の薬物学にあたるもので、植物から動物、鉱物など多岐にわたって研究する学問です。したがって、本草書は挿し絵が入れられたものも多く、図鑑ともいえるでしょう。

また中国医学では、漢方薬と鍼灸医学の両方が重んじられています。図録『鍼のひびき 灸のぬくもり 一癒しの歴史』では、江戸時代の鍼灸の研究に用いられた図巻や書籍を紹介しています。

江戸時代は鎖国以後、戦乱のない時代が長く続き、日本独自の文化が発展しました。医薬の世界においても生活が安定したことから、国産生薬の生産が拡大したり、店舗で薬が販売されるようになりました。このような時代にあって、健康で長生きするために追求されたのが養生法です。また、同時代には、『解体新書』が著され、体の構造について新しい考え方がもたらされました。そしてこれ以降、蘭方医学が隆盛しました。図録『江戸に学ぶ からだと養生』では、江戸時代の養生法と身体の仕組みについてまとめました。ここから東洋医学の世界、そして蘭方医学の世界を学んではいかがでしょうか。



『薬の神様 神農さんの贈り物』



『鍼のひびき 灸のぬくもり 一癒しの歴史』



『江戸に学ぶ からだと養生』

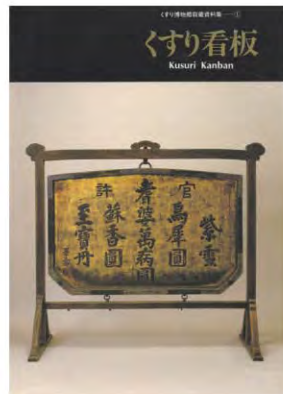
薬の製造と販売

古代から中世の日本では、医師に診察を受けられるのは、貴族など一部の階級の人々に限られていました。庶民は、もっぱら経験から伝えられた民間薬で病氣や怪我の治療をしていたと考えられています。戦国時代になると今日の外科にあたる金創医学が発達し、江戸時代には都市や街道沿い、神社仏閣の門前町に薬屋ができて、薬が売られるようになりました。

図録『丸める・煎じる むかしの製薬道具』は、丸薬製造に用いる器具類の簡単な歴史とその使い方、また煎じ薬を作るのに用いた道具も紹介しています。図録『くすり看板』と『くすり広告』は収蔵資料集で、それぞれ看板と広告に関する当館の収蔵資料を網羅したものです。また図録『くすりの広告文化』は、看板やちらしの成り立ちから始まり、有名な薬の広告を採り上げたり、看板・広告をジャンル別に分類して紹介しています。洗練された江戸の文化や華麗な明治の文化の特徴は、看板や広告にも表れています。



『丸める・煎じる むかしの製薬道具』



『くすり看板』



『くすり広告』



『くすりの広告文化』

ものが語る 医薬のあゆみ

博物館は収蔵資料を通じて、歴史や文化を皆様に伝えていくのが使命のひとつです。

図録『くすり入れ』は、美しい印籠や巾着、重厚な趣の医師の往診用薬箱、使い勝手がよく考えられた百味筆筒など、薬を保存・利用するための、広い意味での入れ物を特集しています。また図録『薬と秤』は、主に重さ秤を豊富な図版で紹介したものです。これらの道具は機能と美しさを兼ね備えた実用品であったといえるでしょう。

図録『くすりの夜明け—近代の薬品と看護—』は、タイトルの通り、18～19世紀に開発された薬品を採り上げているほか、衛生や家庭看護、近代の家庭薬などを紹介しています。また、ロバート・A・トムの絵でたどる医薬の歴史は、昔の医療の様子をほうふつとさせます。

これらの図録に収載されている資料は、展示スペースの関係もあって、常設展ではなかなか紹介できない資料が多いのですが、このように図録になれば、ページをめくるとそこに貴重な資料の数々が蘇ります。



『くすり入れ 印籠・薬箱・百味筆筒』



『薬と秤 —重さをはかる—』



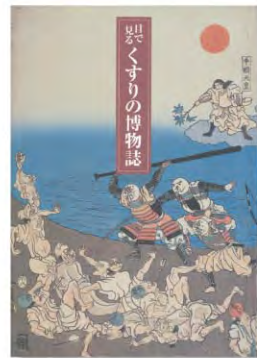
『くすりの夜明け —近代の薬品と看護—』

目で見る 医薬の文化

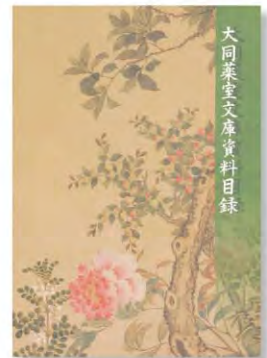
くすり博物館として最初に刊行したのが図録『目で見るくすりの博物誌』でした。これは、刊行当時の収蔵資料の中から、特に貴重な資料を集めたもので、現在の常設展示の基となりました。おおまかな薬のあゆみを知るのに役立ちます。

また、『大同薬室文庫資料目録』は、故・中野康章氏の書籍・資料コレクションの中から、絵画などの資料を紹介したものです。同コレクションの資料は1万4848件あり、軸装・卷子装・短冊・屏風などの絵画や書から成っています。この図録では、主な資料を写真で紹介するとともに、調査研究に役立つ資料リストを掲載しています。

小中学生向けには、図録『くすりワンダーブック』があります。写真やイラストを使って、年中行事や医薬のあゆみや薬の研究開発をわかりやすく紹介しています。自由研究にうってつけの1冊です。



『目で見るくすりの博物誌』



『大同薬室文庫資料目録』



『くすりワンダーブック』

【ご購入の方法】

FAXか郵便でお申し込みください。①購入希望の図録名と②冊数、③購入される方の氏名、④住所、⑤電話番号とFAX番号を明記ください。

◆送料は申込者の方のご負担となります。 ◆郵送方法は、請求書を同封して、宅急便（着払い）もしくは郵便で送付します。 ◆到着後、振り込みください。 ◆注文用紙を利用する場合は、ホームページからダウンロードできます。博物館からFAXもできますので、お気軽にお申し出ください。

図 録 価 格		大同薬室文庫資料目録	江戸に学ぶ からだと養生	¥1,000
目で見るくすりの博物誌	¥1,800	薬と秤 —重さをはかる—	くすりの広告文化	¥1,000
くすり看板	¥2,000	病と祈りの歳時記	くすりの夜明け —近代の薬品と看護—	¥1,700
くすり広告	¥2,000	女・こども・男のくすり	百年前のくすり	¥500
くすり入れ 印籠・薬箱・百味筆筒	¥2,000	薬の神様 神農さんの贈り物	丸める・煎じる —むかしの製薬道具—	¥500
はやり病の錦絵	¥2,000	鍼のひびき 灸のぬくもり —癒しの歴史—	くすりワンダーブック	¥250

とびっくす

新収蔵資料紹介 — 竹内孝一コレクション —

くすり博物館では、2009年5月に愛知県豊橋市の竹内稔弘様・文子様ご夫妻より、医薬史研究者・竹内孝一先生のコレクションをご提供いただきました。

故・竹内孝一先生は明治43年愛知県蒲郡市に生まれ、新潟医科大学をご卒業後、日本赤十字社東京本社産院、横浜市立十全病院産婦人科にご勤務の後、豊橋市で開業されました。そして、医業のかたわら、長年にわたって医薬史に関わる資料・書籍を収集されました。その膨大なコレクションは、解剖図、手術具から古い薬袋や広告に至るまで990点もあります。

現在、これらの資料を整理しており、近い将来には公開したいと考えております。



▲『人身剪形剖体図解(頸部・軀幹)』

J.G.ウィットコースキ著 センブル英訳 安藤正胤・丸川仙二郎重訳 / 丸善書店 / 1883年(明治16)

重ねられた解剖図を展開すると、内部の構造がわかるようになっている。

▲『(袖珍)産科用模型』

柴田耕一考案 / 成功堂 / 1905年(明治38)

紙製の胎児模型は、関節部分が可動式であり、妊娠・出産時の状態がわかりやすい。



■ 近代化産業遺産

経済産業省より認定された当館の医薬史コレクションより、毎月1点ずつ選んで展示を行っています。代表的な資料を解説つきでご覧いただけます。これまでに、碧素(国産ペニシリン)、天然痘ワクチンと種痘用具、植物由来の薬品、聴診器(片耳型)を展示しました。この資料については、くすり博物館のウェブサイトでもご覧いただけます。

ウェブサイト【くすり博物館】

企画展「江戸に学ぶ からだと養生」の紹介ページが10月よりご覧いただけます。展示室をぐるりと見渡したり、『養生訓』など代表的な資料を解説つきで見ることができしますので、ぜひアクセスしてください。

<http://www.eisai.co.jp/museum>

■ 薬草園をより快適に

くすり博物館の温室は、熱帯の有用植物を育成しています。このたび、開館以来使用していたガラスを取り替え、室内が明るくなるようにしました。温室内には、カカオ、バナナ、バナナ、コーヒーなどを栽培しています。ぜひおいでください。

園内にはベンチを増設しました。藤棚の下とイチヨウの木の下でのベンチで休憩しつつ、ゆっくりと植物をご覧いただけます。秋から冬にかけては、薬木園に野鳥の姿も見られます。実のなる木を観察しながら、園内散策はいかがでしょう。



【左上】ヒガラ 【右上】メジロ ▶
【左下】ツグミ 【右下】シジュウカラ

◆◆資料・図書ご提供者ご芳名◆◆

竹内稔弘・文子

～ありがとうございました～

(敬称略/五十音順)

内藤記念くすり博物館

開 館	9:00-16:30
休 館	月曜日・年末年始
館 長	永縄厚雄
学 芸 員	稲垣裕美(編集担当)
学芸員・司書	野尻佳与子 伊藤恭子
庶 務	森田麻起子 沼田望(見学受付) 千本美咲(見学受付)
薬用植物園 (栽培管理)	荻谷辰行 亀谷芳明 石崎順弘